

第2次 猿払村 子どもの読書推進計画

(平成28年度～平成32年度)



猿払村教育委員会

□猿払村子どもの読書推進計画の基本的考え方

1. 本を読むことの意義

現代の子どもを取り巻く生活環境は大きく様変わりし、パソコン・スマートフォンに代表されるメディア機器やテレビ、家庭用ゲーム機がより身近な存在になり、それらに割かれる時間が増加する一方で、マンガや雑誌を除く児童文学書や小説（以下、「本」という。）を読む時間が減少していると言われております。

子ども達が本を読む（以下、「読書」という。）ことで、より多くの‘言葉’や豊かな‘表現力’、‘感性’や‘考える力’が育まれていくと言われており、それぞれの年齢期において優れた本と出会うことは、その後の人格形成に重要な役割をになっております。

その時々で社会状況が大きく変化しても、本そのものの性質は不変であり、猿払村全体で本に触れ親しみ、また、読まれていくように家庭や保育所・学校等と農村環境改善センター図書室が連携した取組みを進めていく必要があります。

2. 計画策定の目的

子ども達が夢と希望を持ち健やかに成長していくためには、学校での教育活動はもとより、学校・家庭・地域が一体となり自ら学び自ら考える力や、豊かな人間性などの「生きる力」を育むための環境づくりが求められています。

本村では、平成23年3月に「猿払村子どもの読書推進計画」を策定し、「親子で本に触れ親しむ」、「読書習慣を身につけることができる環境づくり」、「家庭・学校・関係機関と連携した読書活動の推進」に観点をおいて計画を推進してまいりました。

そして、計画期間の5ヶ年が経過したことから見直しを図り、子ども達が生涯にわたって豊に生きる力を育む読書活動を推進するため、今後の課題を検証し「第2次猿払村子どもの読書推進計画」を策定いたします。

3. 計画の目標

- ① 本に触れ親しむ機会の提供
- ② 家庭における読書時間の定着
- ③ 保育所・学校における読書活動の推進及び図書室との連携

4. 計画策定の期間

平成28年度から平成32年度までの5年間の計画とします。

【目標1 本に触れ親しむ機会の提供】

〔本に触れるきっかけづくり〕

子どもが本に親しむきっかけ作りのため、読書に関する情報発信をさらに進め、読書環境の整備に努めます。

〈具体的施策〉

- ① 図書だよりなどでの様々な形での情報発信。
- ② 図書室以外でも本を借りることのできる環境づくり。(ブックトラックの活用)
- ③ 団体貸出の啓発。

【目標2 家庭における読書時間の定着】

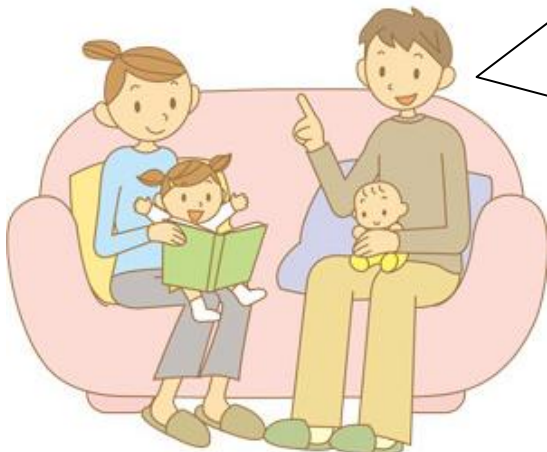
〔家庭における読書活動の重要性〕

各家庭においては、ゲームやインターネットに偏ることなく、家族で読書を行うことが身近にある環境が望まれます。絵本や物語の読み聞かせをしたり、家族で図書室に出向いたりすることを通して子どもが本に出会うきっかけを作ることが大切です。

また、決まった曜日や時間に家族全員が読書をするなどして、各家庭での子どもの読書習慣を形成するため支援を行います。

〈具体的施策〉

- ① うちどく家読等の家庭内読書方法の啓発。
- ② うちどく家読定着のためのイベント開催。
- ③ 家庭学習の手引きと連動した三者の力を合わせた取組み。



うちどく『家読』とは…?

- 家族そろって読書の時間を持つこと。
 - 家族で同じ本を読み感想をノートに記し、全員が読み終わったら家族で本を読んで思った事を話し合う。
 - 折り紙や料理の本を一緒に読み、実際に作ってみる。
- など、本を活用して家族でコミュニケーションをとる活動です。

【目標3 保育所・学校における読書活動の推進及び図書室との連携】

学校教育における読書活動が推進されてきたことで、家庭における読書活動の大切さが再認識されています。幼い時期から読書習慣を身につけるためには、保護者に対する意識啓発が重要であり、講座の開催や情報提供により、保護者の理解を一層深めていく必要があります。

〔保育所における読書活動の推進〕

乳幼児期から、家庭で本を親しむ取組として新生児を対象としたブックスタート事業を活用し絵本のすばらしさを保護者に伝えていくことが大切です。

また、保育所で開かれているおはなし広場などに重点をおきながら、開催場所を図書室にするなど図書室の役割を発信していくことが求められています。

〈保育所との連携〉

- ① おはなし広場を図書室も活用し開催する。
- ② おはなし広場開催にあわせたなかよし号の運行検討。
- ③ 親子で読書の記録を残すことができる「えほん・本の記録」事業の展開。

〔学校における読書活動の推進〕

学校図書室は児童生徒の自由な読書活動や学習情報収集の場としての役割を担うことが期待されています。知的関心等呼び起こし、豊かな心を育む読書センターとしての機能と、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し多様な教育活動に寄与する学習情報センターとしての機能が求められます。

また、中学期の読書は、自我の確立や進路選択などに大きな影響を与えるものです。学校等における読書活動は、子どもが読書習慣を身につけるうえで大きな役割を果たすと共に、確かな学力の基盤を形成する上で重要な役割を担っています。デジタル社会の今日、インターネット利用による読書活動への影響を深く受け止め、様々な視点から読書活動を推奨するための工夫した施策が求められます。

〈学校との連携〉

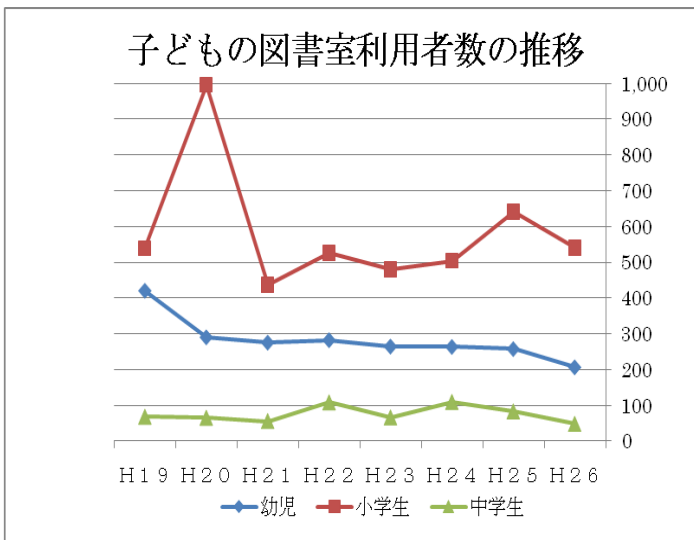
- ① 学校朝読書と連携し団体貸出の推進を強化。また、国が定めた標準蔵書数と差がある学校図書室の蔵書を図書室の団体貸出制度を活用し補う。
- ② 移動図書館車の積載数増のため車両の大型化を検討。児童がより多くの本と出会える環境作りを目指す。

【 参 考 資 料 】

○村内小中学校図書室蔵書数と国が定める標準蔵書数

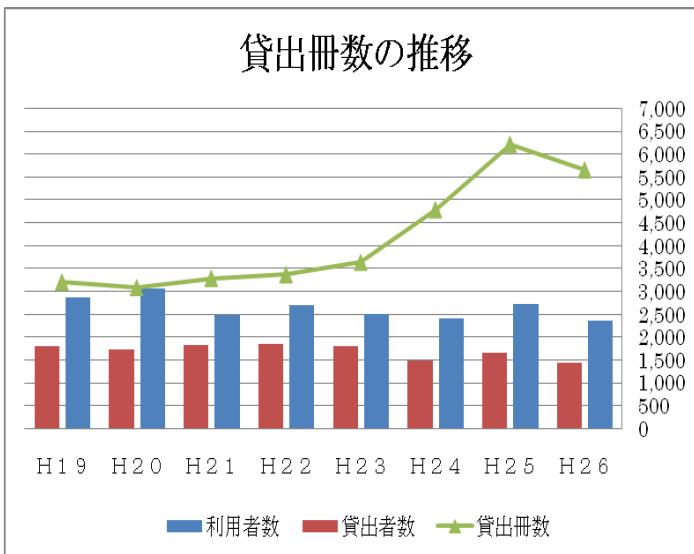
学 校 名	H23蔵書数(達成率)	H27蔵書数(達成率)	標準蔵書数	標準蔵書数との差
鬼志別小学校	1,980冊 (30%)	3,583冊 (54%)	6,520冊	△2,937冊
知来別小学校	3,871冊(109%)	4,266冊(121%)	3,520冊	746冊
浜鬼志別小学校	4,069冊 (67%)	4,537冊 (75%)	6,040冊	△1,503冊
芦野小学校	1,865冊 (46%)	3,310冊 (81%)	4,040冊	△730冊
浅茅野小学校	2,394冊 (68%)	3,366冊 (95%)	3,520冊	△154冊
拓心中学校	4,540冊 (67%)	4,800冊 (71%)	6,720冊	△1,920冊

○子どもの図書室利用者数の推移 (H19～H26)



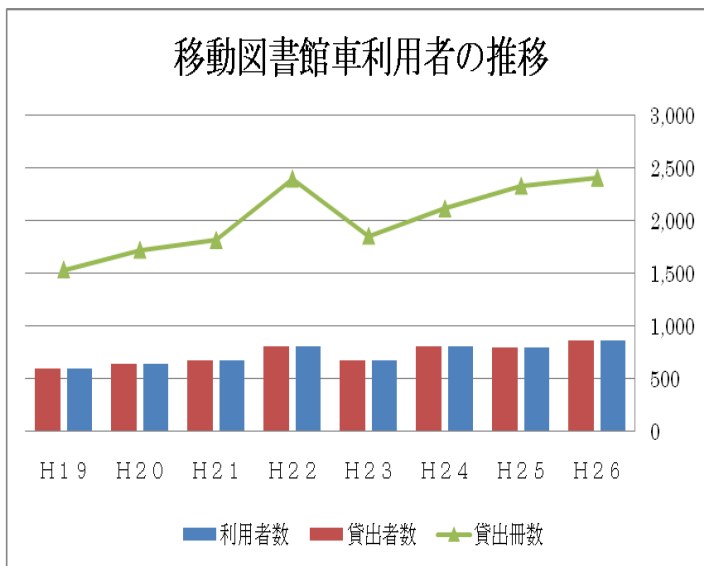
年 度	年 間		
	幼 児	小学生	中学生
H26	207 人	541 人	48 人
H25	258 人	641 人	83 人
H24	264 人	504 人	109 人
H23	265 人	480 人	66 人
H22	283 人	526 人	108 人
H21	276 人	437 人	56 人
H20	291 人	996 人	65 人
H19	421 人	539 人	68 人

○図書貸出数の推移 (H19～H26)



年 度	年 間		
	利用者数	貸出者数	貸出冊数
H26	2,362 人	1,431 人	5,654 冊
H25	2,721 人	1,644 人	6,209 冊
H24	2,414 人	1,493 人	4,786 冊
H23	2,497 人	1,809 人	3,638 冊
H22	2,702 人	1,846 人	3,368 冊
H21	2,476 人	1,820 人	3,288 冊
H20	3,063 人	1,717 人	3,085 冊
H19	2,868 人	1,808 人	3,208 冊

○移動図書館車利用者の推移（H19～H26）



年度	年 間		
	利用者数	貸出者数	貸出冊数
H26	865 人	865 人	2,408 冊
H25	795 人	795 人	2,331 冊
H24	805 人	805 人	2,113 冊
H23	671 人	671 人	1,854 冊
H22	805 人	805 人	2,399 冊
H21	677 人	677 人	1,813 冊
H20	642 人	642 人	1,720 冊
H19	596 人	596 人	1,533 冊



村章



3つの稜は、分村独立（知性、勇気、情熱）、志向（歴史）を表徴する。
円は、広域で豊かな未開地資源と、村政の調和を表現する。
赤・紺2色の色彩は、山と海の幸を意味する。

（村章、村旗とも昭和43年5月9日制定）

村のシンボル

むらの木



ナナカマド

むらの花



コケモモ

むらの魚



イトウ
